

◆企画名	ピア・コミュニティ夏合宿
日程	平成26年9月15日(月)～9月16日(火)
場所	関西大学飛鳥文化研究所・植田記念館
参加者数	34名(ピア・サポータ18名、研修生7名、教職員7名、TA2名)
目的	

①ピア・サポート活動で役立つスキルを身に付ける。②各コミュニティの違いと特色、メンバーについて知る。以上二点によってピア・サポータとしての意識を高め、今後の活動に活かすことを目的とする。

内 容

●フィッティングワーク【内容】ワークを行う前のアイスブレイクとして、親睦を深めるゲームなどを行った。●正しい言葉遣いを考えよう【内容】間違った敬語を訂正し、実際に話してみるということを行った。●情報共有について考えよう<職員企画>【内容】発信者/受信者、それぞれの立場から、これまで自身が行ってきた情報共有を考え直すとともに、各コミュニティで集まって今後の情報共有強化策について話し合った。●計画書を書こう【内容】一般学生向け、ピア・サポータ向けの企画を考えてもらい、手書きで計画書を作成した。●朝のワークお目覚め体操【内容】ワークを始める前に、ラジオ体操で体を動かしてウォーミングアップを行った。●論理的に話す【内容】価値交流学習を題材に使い、相手の共感と納得を得るための論理的説明を班ごとに話し合い発表した。●好印象を持たせる紹介を考えよう【内容】班に分かれて実際に各コミュニティのガイダンスを一人ずつ行い、良かった点・悪かった点を踏まえてより良いガイダンスを考えたい。

効 果

参加者から「実りあるものであった、スキルが身に付いた、他のコミュニティの活動を改めて知ることができた、学んだことが将来の活動で活かしていけると思う」などといった感想を聞くことができた。

運営面や企画実施面ともに多くの課題や問題点が見え、そして同時にそれに伴う改善点が発見された。

改 善 点

- ・合宿がどういったものであるか、その意図と内容など、合宿を企画する者が直接各コミュニティに赴いて説明することが、ピア・サポータの合宿に対する理解を深めること、少しでも興味をもってもらうこと、ひいては合宿参加者増加に繋がると考えられる。
- ・合宿の企画運営は、企画ごとに班を構成して行う。各企画班内での情報共有を確実にし、その企画班の誰に聞いてもワーク概要、進行状況が答えられ、またその内容に差異がないようにする。いつまでに何をやるのかというスケジュールリングを、企画班ごとに徹底して行い、修正が出た場合も余裕をもてるようにする。
- ・次回以降は凜風館のミーティングルームを事前に借りるなどして、できるだけリハーサル場所から本番に近いものにする。いくつかの企画で上がったパワーポイントのスライドが見にくいといった意見に対し、事前に対策できるようにする。

感 想

今回のピア・サポータと研修生の参加者は合わせて25名、全体の約四分の一程度であった。一部のピア・サポータのスキルアップや交流が盛んになることのみでは、運営本部の理念である各コミュニティの連携促進やサポートが十分に行えていないといえる。一人でも多く参加者を増やす努力をすることで、より活発なコミュニティ間の交流を促し、ピア・コミュニティ活動をさらに意識の高いものに繋げていく必要があると思う。